

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2019-152002
(P2019-152002A)

(43) 公開日 令和1年9月12日(2019.9.12)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 6 B 1/20 (2006.01)	E O 6 B 1/20	2 E O 1 1
E 0 6 B 1/56 (2006.01)	E O 6 B 1/56 A	
E 0 6 B 1/18 (2006.01)	E O 6 B 1/18 H	
	E O 6 B 1/18 F	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2018-36959 (P2018-36959)	(71) 出願人	302045705
(22) 出願日	平成30年3月1日 (2018.3.1)		株式会社 L I X I L
			東京都江東区大島2丁目1番1号
		(74) 代理人	100106002
			弁理士 正林 真之
		(74) 代理人	100165157
			弁理士 芝 哲央
		(74) 代理人	100126000
			弁理士 岩池 満
		(74) 代理人	100160794
			弁理士 星野 寛明
		(72) 発明者	井東 克孝
			東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会
			社 L I X I L 内

最終頁に続く

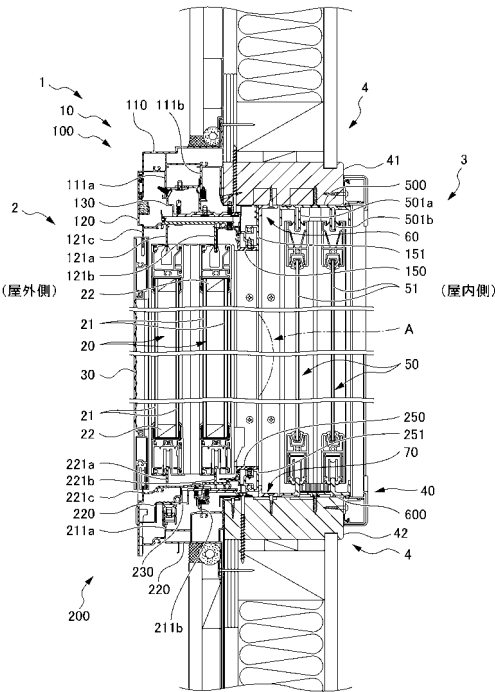
(54) 【発明の名称】 建具及び改装サッシの施工方法

(57) 【要約】

【課題】外窓の屋内側に内窓を一定の間隔をあけて容易に取り付けることができる建具及び改装サッシの施工方法を提供すること。

【解決手段】建物の開口部に取り付けられる外窓2と、外窓2の屋内側に取り付けられる内窓3と、を備える建具1であって、外窓2の外窓枠10の屋内側の側面10aに、内窓3に向けて一定の長さで延出する見切り材60、70、80、90が配置され、内窓3は、内窓枠40の屋外側の側面40aを見切り材60、70、80、90に当接させた。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

建物の開口部に取り付けられる外窓と、
前記外窓の屋内側に取り付けられる内窓と、を備える建具であって、
前記外窓の外窓枠の屋内側の側面に、前記内窓に向けて一定の長さで延出する見切り材が配置され、
前記内窓は、内窓枠の屋外側の側面を前記見切り材に当接させた、建具。

【請求項 2】

前記外窓の前記外窓枠は、建物の開口部に取り付けられる既設枠と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠と、を有する改装サッシの窓枠である、請求項 1 に記載の建具。

10

【請求項 3】

前記新設枠の屋内側の側面は、前記既設枠の屋内側の端部よりも屋内側に設けられる、請求項 2 に記載の建具。

【請求項 4】

前記見切り材は、前記新設枠の屋内側の側面に当接して配置される、請求項 3 に記載の建具。

【請求項 5】

建物の開口部に取り付けられる既設枠と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠と、を有する外窓の屋内側に内窓を取り付ける改装サッシの施工方法であって、

20

前記外窓の外窓枠の屋内側の側面に、前記内窓に向けて一定の長さで延出する見切り材を配置させた後、

前記外窓の屋内側から、前記内窓の内窓枠の屋外側の側面を前記見切り材に当接させる、改装サッシの施工方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、建具及び既設の窓を新たな窓に改装する改装サッシの施工方法に関する。

【背景技術】

30

【0002】

従来、既設の窓を改装する方法として、カバー工法が採用されている。このカバー工法によって改装された改装サッシでは、建物の開口部に取り付けられた既設枠に対して、その内周側を覆うように新設枠が取り付けられる（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

ところで、近年、建物の断熱性能及び防音性能の向上を図るために、窓（外窓）の屋内側に、更に新たな窓（内窓）を取り付ける要請が高まっている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

40

【特許文献 1】特開 2016 - 94771 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

外窓の屋内側に内窓を取り付ける場合、外窓と内窓との間に、両者の干渉を避けるための一定の間隔をあける必要がある。例えば、外窓にクレセント錠が取り付けられている場合、クレセント錠の回転軌跡に対して内窓が干渉しないように、外窓と内窓との間隔をあける必要がある。

【0006】

しかし、内窓を施工する際に、窓枠の四周に亘って外窓との間に一定の間隔を保持させ

50

て内窓を取り付けることが困難であり、内窓の施工性が悪いという問題があった。

【 0 0 0 7 】

そこで、本発明は、外窓の屋内側に、外窓に対して一定の間隔をあけて内窓を取り付ける際の施工性に優れた建具及び改装サッシの施工方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

(1) 本発明に係る建具は、建物の開口部に取り付けられる外窓（例えば、後述の外窓 2 ）と、前記外窓の屋内側に取り付けられる内窓（例えば、後述の内窓 3 ）と、を備える建具（例えば、後述の建具 1 ）であって、前記外窓の外窓枠（例えば、後述の外窓枠 1 0 ）の屋内側の側面（例えば、後述の側面 1 0 a ）に、前記内窓に向けて一定の長さで延出する見切り材（例えば、後述の見切り材 6 0 、 7 0 、 8 0 、 9 0 ）が配置され、前記内窓は、前記内窓の内窓枠（例えば、後述の内窓枠 4 0 ）の屋外側の側面（例えば、後述の側面 4 0 a ）を前記見切り材に当接させた。

10

【 0 0 0 9 】

(2) (1) に記載の建具において、前記外窓を構成する前記外窓枠は、建物の開口部に取り付けられる既設枠（例えば、後述の既設上枠 1 1 0 、既設下枠 2 1 0 、既設縦枠 3 1 0 、 4 1 0 ）と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠（例えば、後述の新設上枠 1 2 0 、新設下枠 2 2 0 、新設縦枠 3 2 0 、 4 2 0 ）と、を有する改装サッシの窓枠であることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

20

(3) (2) に記載の建具において、前記新設枠の屋内側の側面（例えば、後述の側面 1 2 0 a 、 2 2 0 a 、 3 2 0 a 、 4 2 0 a ）は、前記既設枠の屋内側の端部（例えば、後述の端部 1 1 0 a 、 2 1 0 a 、 3 1 0 a 、 4 1 0 a ）よりも屋内側に設けられることが好ましい。

【 0 0 1 1 】

(4) (3) に記載の建具において、前記見切り材は、前記新設枠の屋内側の側面に当接して配置されることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

(5) 本発明に係る改装サッシの施工方法は、建物の開口部に取り付けられる既設枠（例えば、後述の既設上枠 1 1 0 、既設下枠 2 1 0 、既設縦枠 3 1 0 、 4 1 0 ）と、前記既設枠の内周側を覆うように取り付けられる新設枠（例えば、後述の新設上枠 1 2 0 、新設下枠 2 2 0 、新設縦枠 3 2 0 、 4 2 0 ）と、を有する外窓（例えば、後述の外窓 2 ）の屋内側に内窓（例えば、後述の内窓 3 ）を取り付ける改装サッシの施工方法であって、前記外窓の外窓枠（例えば、後述の外窓枠 1 0 ）の屋内側の側面（例えば、後述の側面 1 0 a ）に、前記内窓に向けて一定の長さで延出する見切り材（例えば、後述の見切り材 6 0 、 7 0 、 8 0 、 9 0 ）を配置させた後、前記外窓の屋内側から、前記内窓の内窓枠（例えば、後述の内窓枠 4 0 ）の屋外側の側面（例えば、後述の側面 4 0 a ）を前記見切り材に当接させる。

30

【発明の効果】

【 0 0 1 3 】

40

本発明は、外窓の屋内側に、外窓に対して内窓を一定の間隔をあけて容易に取り付けることができる建具及び改装サッシの施工方法を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

【図 1】本発明の一実施形態に係る建具を屋外側から見た正面図である。

【図 2】図 1 に示す建具の縦断面図である。

【図 3】図 1 に示す建具の横断面図である。

【図 4】図 2 に示す建具の上枠部分の拡大縦断面図である。

【図 5】図 2 に示す建具の下枠部分の拡大縦断面図である。

【図 6】図 3 に示す建具の一方の縦枠部分の拡大横断面図である。

50

【図 7】図 3 に示す建具の他方の縦枠部分の拡大横断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、本発明の一実施形態について、図面を参照して詳しく説明する。

図 1 は、本発明の一実施形態に係る建具を屋外側から見た正面図であり、図 2 は、図 1 に示す建具の縦断面図であり、図 3 は、図 1 に示す建具の横断面図である。図 4 は、図 2 に示す建具の上枠部分の拡大縦断面図であり、図 5 は、図 2 に示す建具の下枠部分の拡大縦断面図である。図 6 は、図 3 に示す建具の一方の縦枠部分の拡大横断面図であり、図 7 は、図 2 に示す建具の他方の縦枠部分の拡大横断面図である。

【0016】

10

図 1 ~ 図 3 に示すように、本実施形態に示す建具 1 は、建物の開口部に納められる引違い窓タイプの建具である。建具 1 は、建物の開口部の屋外側に配置される外窓 2 と、建物の開口部において、外窓 2 の屋内側に配置される内窓 3 と、で構成される。外窓 2 の屋内側には、建物の開口部の四周を取り囲むように額縁部材 4 が設けられている。

【0017】

なお、本実施形態に示す建具 1 は、既設の窓を改装した改装サッシである。額縁部材 4 は、建物の開口部に設けられる上側部の鴨居 4 1 と、下側部の敷居 4 2 と、縦側部の柱材 4 3、4 4 とで矩形に枠組みされて構成されている。この建具 1 の施工に際して、鴨居 4 1 及び敷居 4 2 に設けられる溝 4 1 a、4 2 a は、予め木材等によって埋められている。従って、溝 4 1 a、4 2 a が、後述する内窓 3 等の取り付けの支障となることはない。

20

【0018】

外窓 2 は、上枠 1 0 0 と、下枠 2 0 0 と、左右一対の縦枠 3 0 0、4 0 0 により矩形に枠組みされた外窓枠 1 0 と、この外窓枠 1 0 にスライド可能に納められる引違い用の 2 枚の障子 2 0、2 0 と、この外窓枠 1 0 において、障子 2 0、2 0 の屋外側にスライド可能に納められる 1 枚の網戸 3 0 と、を備える。

【0019】

各障子 2 0 は、屋外側及び屋内側に配置される 2 枚のガラス 2 1、2 1 と、これら 2 枚のガラス 2 1、2 1 で挟持されたスペーサ 2 2 と、を備える複層ガラスからなり、優れた断熱性を有する。

【0020】

30

外窓 2 は、建物の開口部に取り付けられる既設枠の内周側に新設枠を取り付けることによって構成される。先ず、図 2、図 4 に示すように、上枠 1 0 0 は、既設上枠 1 1 0 と、新設上枠 1 2 0 と、上枠ベース材 1 3 0 と、を含んで構成される。

【0021】

既設上枠 1 1 0 は、建物の開口部の屋外側の上側部に取り付けられており、下方に向けて立設される既設障子用のガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b を有する。既設上枠 1 1 0 の屋内側は、額縁部材 4 に固定されている。

【0022】

新設上枠 1 2 0 は、上枠ベース材 1 3 0 を間に挟んで、既設上枠 1 1 0 の内周側に取り付けられる。新設上枠 1 2 0 は、下方に向けて立設される引違いの 2 枚の障子 2 0、2 0 用のガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b と、網戸 3 0 用のガイドレール 1 2 1 c を有する。ガイドレール 1 2 1 a、1 2 1 b には、障子 2 0、2 0 の上端部が係合している。ガイドレール 1 2 1 c には、網戸 3 0 の上端部が係合している。

40

【0023】

新設上枠 1 2 0 の最も屋内側の側面 1 2 0 a は、既設上枠 1 1 0 の最も屋内側の端部 1 1 0 a よりも屋内側に設けられている。

【0024】

上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 と新設上枠 1 2 0 との間に配置される。上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の長さに比べて十分に短い長さに形成された金属製の板状部材からなり、上枠ベース材 1 3 0 の裏面に設けられるブラケット 1 3 1 及び取付けね

50

じ 1 3 2 によって、既設上枠 1 1 0 のガイドレール 1 1 1 a、1 1 1 b に取り付けられる。上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の長さ方向に間隔をおいて複数取り付けられる。これにより、各上枠ベース材 1 3 0 は、既設上枠 1 1 0 の内周側（下側）に、新設上枠 1 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設上枠 1 2 0 は、この上枠ベース材 1 3 0 の表面（下面）に対して取り付けられる。

【 0 0 2 5 】

図 2、図 5 に示すように、下枠 2 0 0 は、既設下枠 2 1 0 と、新設下枠 2 2 0 と、下枠ベース材 2 3 0 と、を含んで構成される。

【 0 0 2 6 】

既設下枠 2 1 0 は、建物の開口部の屋外側の下側部に取り付けられており、上方に向けて立設される既設障子用のガイドレール 2 1 1 a、2 1 1 b を有する。既設下枠 2 1 0 の屋内側は、額縁部材 4 に固定されている。

【 0 0 2 7 】

新設下枠 2 2 0 は、下枠ベース材 2 3 0 を間に挟んで、既設下枠 2 1 0 の内周側に取り付けられる。新設下枠 2 2 0 は、上方に向けて立設される引違いの 2 枚の障子 2 0、2 0 のためのガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b と、網戸 3 0 のためのガイドレール 2 2 1 c を有する。ガイドレール 2 2 1 a、2 2 1 b には、障子 2 0、2 0 の下端部が係合している。ガイドレール 2 2 1 c には、網戸 3 0 の下端部が係合している。

【 0 0 2 8 】

新設下枠 2 2 0 の最も屋内側の側面 2 2 0 a は、既設下枠 2 1 0 の最も屋内側の端部（既設下枠 2 1 0 のアングル部材の屋内側端部）2 1 0 a よりも屋内側に設けられている。

【 0 0 2 9 】

下枠ベース材 2 3 0 は、既設下枠 2 1 0 と新設下枠 2 2 0 との間に配置される。下枠ベース材 2 3 0 は、2 枚の障子 2 0、2 0 の荷重を受けるため、下枠 2 0 0 の長さ方向に亘って延びる金属製の板状部材からなる。下枠ベース材 2 3 0 の屋外側は、既設下枠 2 1 0 のガイドレール 2 1 1 a 上に載置され、屋内側は、ブラケット 2 3 1 及び取付けねじ 2 3 2 によってガイドレール 2 1 1 b に取り付けられている。これにより、下枠ベース材 2 3 0 は、既設下枠 2 1 0 の内周側（上側）に、新設下枠 2 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設下枠 2 2 0 は、この下枠ベース材 2 3 0 の表面（上面）に対して取り付けられる。

【 0 0 3 0 】

図 2、図 6、図 7 に示すように、左右の縦枠 3 0 0、4 0 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 と、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 と、を含んで構成される。

既設縦枠 3 1 0、4 1 0 は、建物の開口部の屋外側の左右縦側部にそれぞれ取り付けられている。既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の屋内側は、額縁部材 4 に固定されている。

新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 を間に挟んで、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に取り付けられる。

【 0 0 3 1 】

新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の最も屋内側の側面 3 2 0 a、4 2 0 a は、既設縦枠 3 1 0 の最も屋内側の端部 3 1 0 a、4 1 0 a よりも屋内側に設けられている。

【 0 0 3 2 】

縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 と新設縦枠 3 2 0、4 2 0 との間に配置される。縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、それぞれ新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の長さに比べて十分に短い長さに形成された金属製の板状部材からなり、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に、ブラケット 3 3 1、4 3 1 によって取り付けられる。縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の長さ方向に間隔をおいて複数取り付けられている。これにより、各縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 は、既設縦枠 3 1 0、4 1 0 の内周側に、新設縦枠 3 2 0、4 2 0 のための略平坦な取付け面を形成する。新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、この縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0 の表面に対して取り付けられる。

【 0 0 3 3 】

以上の構成を備える外窓 2 の外窓枠 1 0 は、上枠 1 0 0、下枠 2 0 0 及び左右の縦枠 3 0 0、4 0 0 により矩形に枠組みされる。これにより、外窓枠 1 0 の新設枠（新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0）は、各ベース材（上枠ベース材 1 3 0、下枠ベース材 2 3 0、縦枠ベース材 3 3 0、4 3 0）を介して、既設枠（既設上枠 1 1 0、既設下枠 2 1 0 及び既設縦枠 3 1 0、4 1 0）の内周側を覆うように取り付けられている。

【 0 0 3 4 】

本実施形態に示す外窓枠 1 0 において、新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0 は、アルミ等の金属材からなるが、これら新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0 及び新設縦枠 3 2 0、4 2 0 の屋内側に、それぞれ樹脂アングル部材 1 5 0、2 5 0、3 5 0、4 5 0 を有する。これにより、外窓 2 は断熱性に優れる。

10

【 0 0 3 5 】

樹脂アングル部材 1 5 0、2 5 0、3 5 0、4 5 0 は、それぞれ額縁部材 4 との間に間隔を有して配置され、樹脂アングル部材 1 5 0、2 5 0、3 5 0、4 5 0 と額縁部材 4 との間に、それぞれアングルカバー 1 5 1、2 5 1、3 5 1、4 5 1 が装着されている。また、アングルカバー 1 5 1、2 5 1、3 5 1、4 5 1 と額縁部材 4 の内周面との境目は、断面 L 型の見切り材 6 0、7 0、8 0、9 0 によって遮蔽されている。

【 0 0 3 6 】

図 2、図 3 に示すように、内窓 3 は、上枠 5 0 0 と、下枠 6 0 0 と、左右一対の縦枠 7 0 0、8 0 0 により矩形に枠組みされた内窓枠 4 0 と、この内窓枠 4 0 にスライド可能に納められる引違い用の 2 枚の障子 5 0、5 0 と、を備える。

20

【 0 0 3 7 】

上枠 5 0 0、下枠 6 0 0 及び縦枠 7 0 0、8 0 0 は、額縁部材 4 の内周面にそれぞれ固定されている。上枠 5 0 0 は、下方に向けて立設されるガイドレール 5 0 1 a、5 0 1 b を有する。下枠 6 0 0 は、上方に向けて立設されるガイドレール 6 0 1 a、6 0 1 b を有する。

【 0 0 3 8 】

各障子 5 0 は、それぞれ 1 枚のガラス 5 1 を有する。障子 5 0 の上端部は、上枠 5 0 0 のガイドレール 5 0 1 a、5 0 1 b と係合し、障子 5 0 の下端部は、下枠 6 0 0 のガイドレール 6 0 1 a、6 0 1 b と係合している。

30

【 0 0 3 9 】

ここで、内窓 3 は、外窓 2 の屋内側において、外窓 2 に対して一定の間隔をあけて額縁部材 4 の内周面に取り付けられる。外窓 2 と内窓 3 との間隔は、見切り材 6 0、7 0、8 0、9 0 の幅（屋内外方向の長さ）によって規定されている。

【 0 0 4 0 】

具体的には、図 4～図 7 に示すように、見切り材 6 0、7 0、8 0、9 0 は、アングルカバー 1 5 1、2 5 1、3 5 1、4 5 1 に当接する当接部 6 1、7 1、8 1、9 1 と、額縁部材 4 の内周面に当接する延出部 6 2、7 2、8 2、9 2 とを有する断面 L 型に形成されている。アングルカバー 1 5 1、2 5 1、3 5 1、4 5 1 は、新設枠（新設上枠 1 2 0、新設下枠 2 2 0、新設縦枠 3 2 0、4 2 0）の屋内側の側面 1 2 0 a、2 2 0 a、3 2 0 a、4 2 0 a を構成している。従って、見切り材 6 0、7 0、8 0、9 0 は、新設枠の屋内側の側面 1 2 0 a、2 2 0 a、3 2 0 a、4 2 0 a に当接して配置される。

40

【 0 0 4 1 】

各延出部 6 2、7 2、8 2、9 2 は、額縁部材 4 の内周面に沿って屋内方向に同一の延出長さ B を有し、取付けねじ 6 3、7 3、8 3、9 3 によって額縁部材 4 の内周面に固定されている。内窓 3 は、内窓枠 4 0 の屋外側の側面 4 0 a を延出部 6 2、7 2、8 2、9 2 の先端に屋内側から当接させて、額縁部材 4 の内周面に取り付けられている。

【 0 0 4 2 】

これにより、内窓 3 は、外窓 2 に対して、四周に亘って見切り材 6 0、7 0、8 0、9

50

0の幅、具体的には延出部62、72、82、92の幅(屋内外方向の長さ)によって規定される一定の間隔(延出長さB)をあけて取り付けられる。この延出部62、72、82、92の延出長さBは、内窓3が外窓2に対して、外窓2のクレセント錠(図示せず)の回転軌跡A(図2参照)と干渉しないように離間し得る長さに設定される。このため、内窓3を、見切り材60、70、80、90の各延出部62、72、82、92の先端に当接させるだけで、外窓2の屋内側に、外窓2(外窓2のクレセント錠)と干渉しない一定の間隔(延出長さB)をあけて内窓3を容易に取り付けることができる。

【0043】

しかも、このように、本実施形態の見切り材60、70、80、90は、本来の見切り材としての機能に加えて、外窓2と内窓3との間の間隔を一定に規定及び保持する間隔保持部材としても機能するため、見切り材と別途の間隔保持部材を設ける必要がなく、建具1の構造を簡素化できる。

10

【0044】

更に、見切り材60、70、80、90は、外窓枠10と別体であるため、建物の開口部の形状、構造等に応じて、延出部62、72、82、92の延出長さBが異なる見切り材60、70、80、90を選択して使用することにより、外窓2と内窓3との間隔を任意の一定間隔に容易に規定することができる。

【0045】

また、本実施形態では、新設枠(新設上枠120、新設下枠220、新設縦枠320、420)の屋内側の側面120a、220a、320a、420aは、既設枠(既設上枠110、既設下枠210、既設縦枠310、410)の屋内側の端部110a、210a、310a、410aよりも屋内側に設けられるので、内窓3を取り付けるスペースが小さくなる。その結果、内窓3を外窓2に近接させて設置する必要がある。しかし、内窓枠40の屋外側の側面40aを見切り材60、70、80、90に当接させるだけで、内窓3を、外窓2と干渉しない一定の間隔をあけて容易に取り付けることができる。

20

【0046】

既設の窓を建具1(改装サッシ)に改装する場合は、既設枠に新設枠を取り付けて外窓2を構成した後、その外窓2の外窓枠10の屋内側の側面10a(アングルカバー151、251、351、451の屋内側の面)に見切り材60、70、80、90を当接させて取り付け。次いで、外窓2の屋内側から、額縁部材4の内周に内窓3を挿入させ、内窓枠40の屋外側の側面40aを、見切り材60、70、80、90の延出部62、72、82、92の先端部に当接させることにより、内窓3を額縁部材4の内周面に取り付ける。これにより、外窓2の屋内側に、外窓2に対して内窓3を一定の間隔をあけて容易に取り付けることができる。

30

【0047】

なお、本実施形態では、見切り材60、70、80、90は四周に亘って設けられているが、見切り材60、70、80、90は、必ずしも四周に亘って設けられていなくてもよい。見切り材は、例えば左右の縦側の見切り材80、90だけであってもよい。

【0048】

また、本実施形態では、建具1の外窓2が既設の窓を改装した改装サッシであり、その内側に新たに内窓3を取り付ける場合について説明したが、以上のように、内窓3が外窓2の屋内側に一定の間隔をあけて取り付けられる建具は、建物に新設される建具にも同様に適用することができる。

40

【符号の説明】

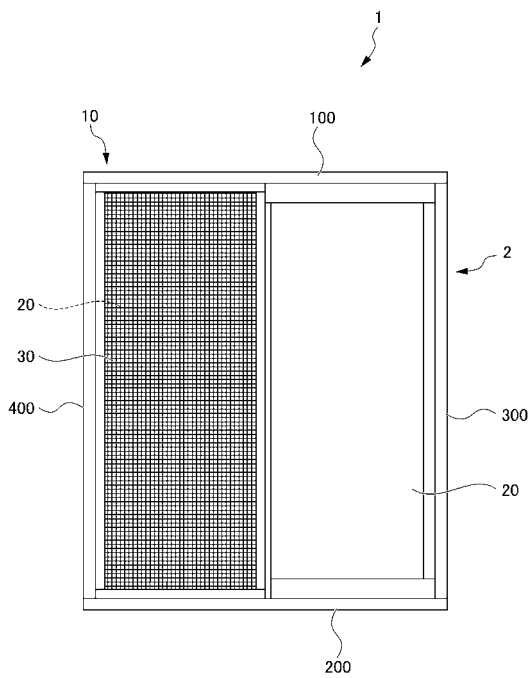
【0049】

- 1 建具(改装サッシ)
- 2 外窓
- 3 内窓
- 10 外窓枠
- 10a 外窓枠の屋内側の側面

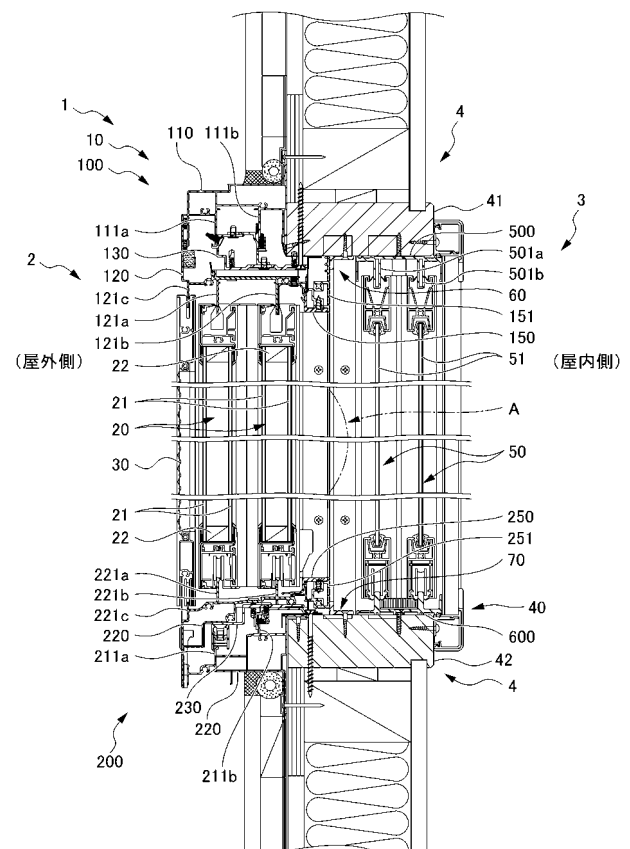
50

- 4 0 内窓枠
- 4 0 a 内窓枠の屋外側の側面
- 6 0、7 0、8 0、9 0 見切り材
- 6 2、7 2、8 2、9 2 延出部
- 1 1 0 既設上枠（既設枠）
- 2 1 0 既設下枠（既設枠）
- 3 1 0、4 1 0 既設縦枠（既設枠）
- 1 2 0 新設上枠（新設枠）
- 2 2 0 新設下枠（新設枠）
- 3 2 0、4 2 0 新設縦枠（新設枠）

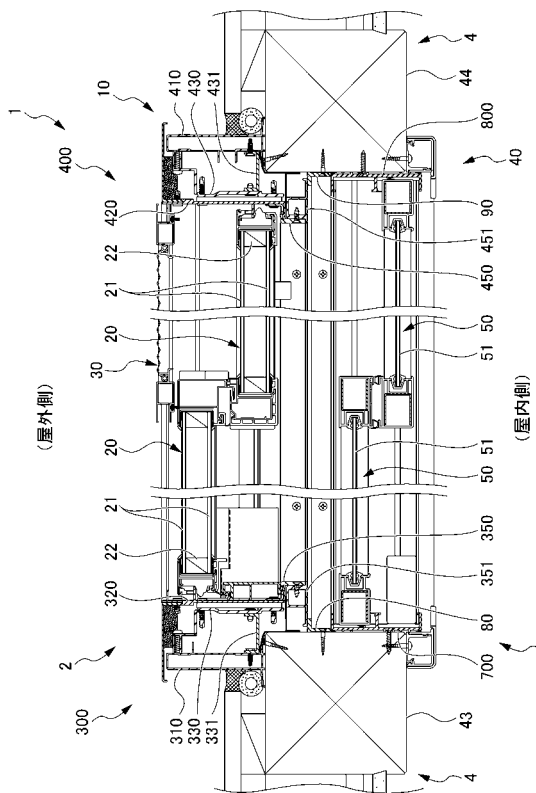
【図 1】



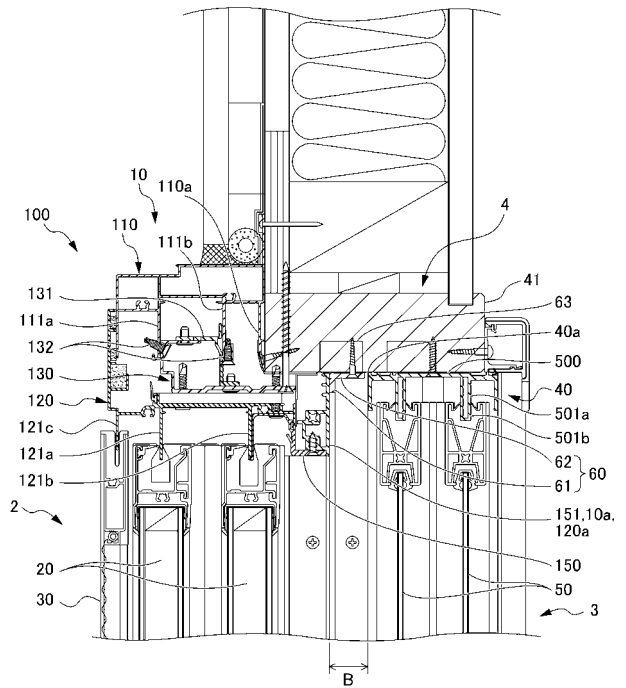
【図 2】



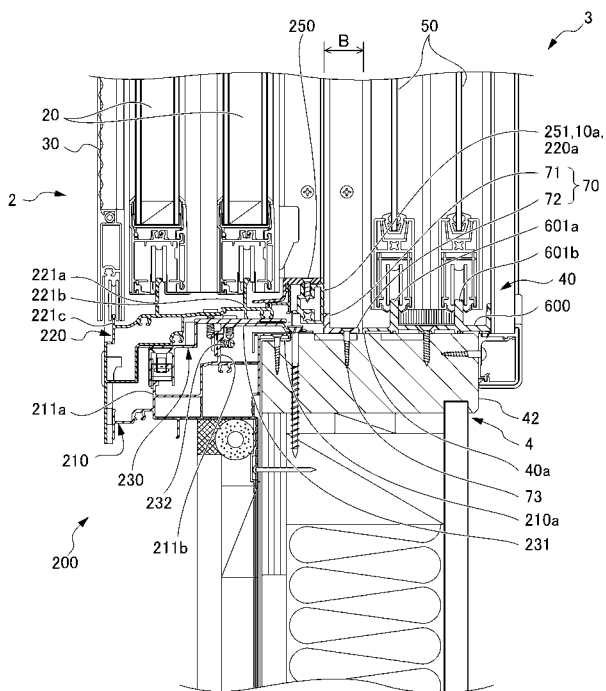
【図 3】



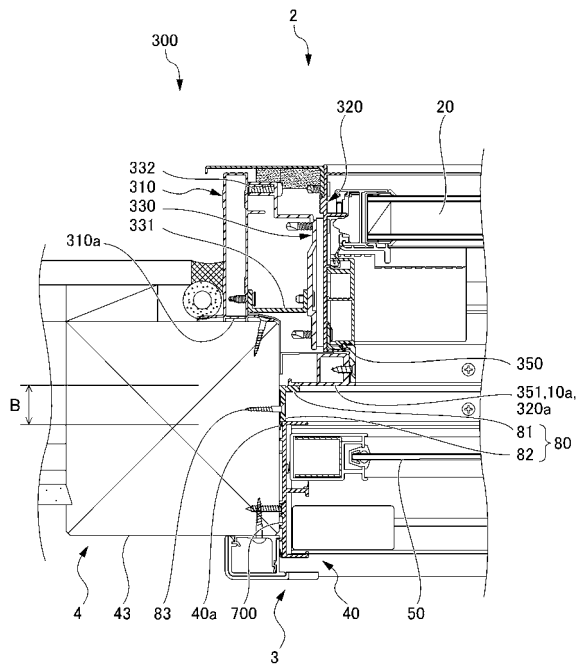
【図 4】



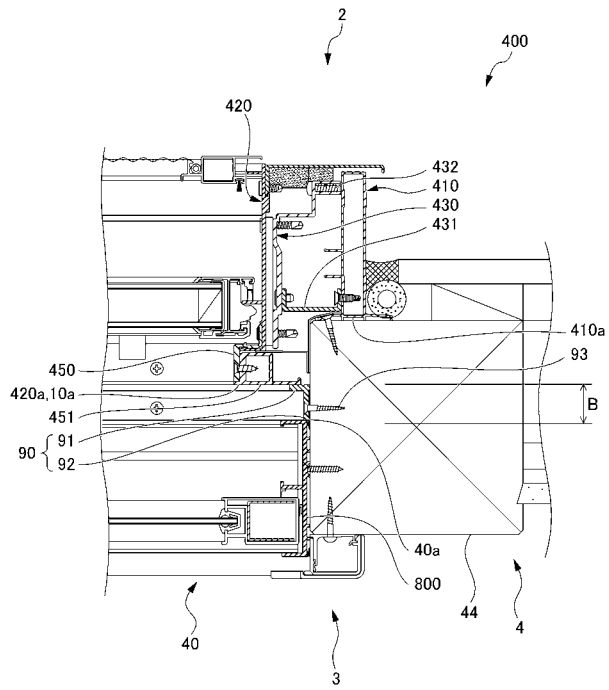
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

F ターム(参考) 2E011 JA02 KA01 KA06 KB03 KB04 KB05 KC01 KC07 KC09 KD14
KD26 KF01 KG04 KG05 KH01